



# 黄河の森

## K F G

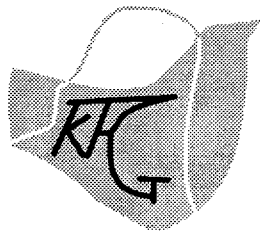
発行/特定非営利活動法人  
黄河の森緑化ネットワーク  
代表理事/林 同春  
編集責任者/KFG事務局長 林 青彦  
〒650-0011  
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11  
神戸華僑会館内  
TEL・FAX 078-392-8328  
郵便振替/00930-0-186105  
NPO法人黄河の森緑化ネットワーク



《ヤッタネ!》

日中友好林にて

KFG理事 麦 兆良  
(写真提供)



ああ あの大河 太古より 流れる誇り  
ああ その緑 永久に たやさぬ心  
燃えたつ生命 ここに ここに

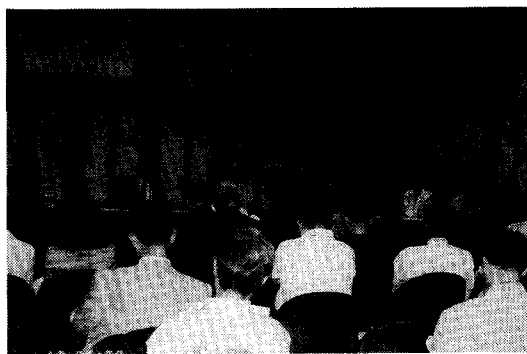
### CONTENTS

- P.2 第1回 通常総会
- P.2 中国・蘭州市カウンターパートよりの祝詞
- P.3 砂漠緑化はできる?できない?
- P.3 石副代 兵庫県国際協力功労受賞
- P.3 写真とスケッチ展報告
- P.4 私と環境(1) 森は友達
- P.4 第2回 六甲山クリーンアップへの参加
- P.4 2003年度植樹ワーキングツアーに同行して
- P.5 黄土高原の植物II
- P.5 会務報告

## NPO法人黄河の森緑化ネットワーク (KFG)

# 第1回 通常総会報告

2004年5月23日(社)中華会館7Fホールにおいて、NPO法人黄河の森緑化ネットワークの第1回通常総会を開きました。当日50名の会員・一般参加者が出席され、林同春代表理事の挨拶の後、秋山栄氏を議長に選出し各議案に対する報告・承認を得ました。総会后、KFG顧問徳岡正三氏の講演会が行なわれ、また懇親会では新しい会員も交えて、なごやかに交流が行なわれました。写真とスケッチ展の来場者は、厳しい荒地と緑のコントラストの写真では美しいが、荒地や砂漠と対峙する草木の厳しい環境に感心されていた。



## 地球に緑を！黄土高原を森林に！

### “愚公移山” 心を一つにして始めよう

盛夏のなか会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は黄河の森緑化ネットワークに対し格別のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、21世紀の幕開けに日中友好人士のご協力により、黄土高原を森林緑化すべく植樹ネットワーク(KFG)を立ち上げ、早くも4年になりました。緑化活動に向けて本気・やる気・根気と熱意ある私達が、その間3回黄土高原植樹ワーキングツアーを組み、現地を訪れ現地の人々と共に汗を流し、荒地を耕し苗木を植え続けて来ました。

今、第1回のワーキングツアーの皆さんが「強く早く大きくなれ」と心を込めて植えた苗木が、厳しい黄土高原の荒地に根付き、立派な若木として成長し、小緑林になりつつあるのはすばらしいことです。植樹ワーキングツアーの参加者、緑化協力金をご支援くださった会員の皆さんにとりましても大きな喜びです。しかし幾重の山々が連なる大荒地の黄土高原一帯を緑化することは並大抵な事業ではありません。今後、幾年幾十年もかかる大事業です。

「愚公山を移す」の気概で粘り強く

NPO法人 黄河の森緑化ネットワーク

代表理事 林 同 春

(神戸華僑総会名誉会長)

(兵庫県外国人学校協議会会長)

やっていきましょう。特に(KFG)にとりましては、今後社会的にも信頼される団体として活動を広げるために、認証後5月23日神戸中華会館において第1回会員大会を開催しました。その節会員各位より活発なボランティア活動を表わす立派な意見、発言のもとに大成功裡に総会を終えることができましたことは、誠に喜ばしい限りです。

小さなグループ“KFG”の私達ですが、お互いに手を組み心を合わせて緑を愛する、地球を愛する心でもってこの素晴らしい夢のある事業を邁進していきましょう！

## 中国・蘭州市カウンターパートよりの祝詞

### — ひとつの夢に向かって、共に歩こう —

先日、日本政府より黄河の森緑化ネットワークが特定非営利活動法人の資格を得たという吉報を知った時、私は本心より嬉しく思いました。ここに私個人と蘭州市南北両山緑化工程指揮部の全職員を代表して、貴殿ならびに全会員の方達に熱烈なるお祝いと崇高なる敬意を表します。おめでとうございます！

緑化事業に携わる者のひとりとして、黄河の森緑化ネットワークが何もいらない所から芽を出し、小さな集まりからどんどん大きな組織となり、

当初は任意団体だったのが今では正式な法人となった過程を私自身がこの目で見られ、また貴組織と蘭州市南北両山緑化工程指揮部が共同で中日友好林を作る事業に私自身が最初から参加出来た事を大変嬉しく光栄に思います。

この共同事業は私が従事して来た緑化事業において最も有意義な出来事の一つです。私たちは遠く離れています、最初見知らぬ者同士が1つの夢を実現させる為に私たちは一本の道を歩き始め、共同で自分

達の子や孫の為に、ひいては全人類の幸せの為にこの偉大な事業を始めたのです。鬱蒼と生い茂る友好林、それは平坦な道のりなのか、いばらの道だったのか、それは将来歴史が明かしてくれるでしょう。

貴組織が特定非営利活動法人の資格を得られたということは、我々の協働が成功する為の更なる力となり、この事業に益々輝きをもたらしたと信じております。

最後に大会の円満なる成功をお祝い申し上げます。(KFG会員 金啓功 訳)

蘭州市南北両山緑化工程指揮部

副指揮 馬 金 山

2004年5月10日

# “砂漠緑化はできる？できない？” 講演会報告

— 砂漠緑化の真実 —

総会に引き続き、KFG顧問徳岡正三氏が上記をテーマに講演しました。真の砂漠は不可能ですが、KFGが緑化に取り組んでいる黄土高原は、元々緑の多い土地だったので緑化は可能です。

植樹と灌水は切り離せないものですが、やっかいなことに中国では水不足が深刻な問題となっています。ポプラは生長が早いのですが、水の消費が多く地下水位を下げる原因ともなっています。地域の実状に合った植林、乾燥に強い節水型の低木を植えたり、雨水の有効利用や汚水・排水の再利用など水を効率的に使う必要が分りました。



砂漠と沙地 \*は日中友好林の位置を示す

## 石副代 “兵庫県国際協力功労” を受賞

石嘉成KFG副代表は2004年度兵庫県国際協力功労者の1人として表彰されました。

石さんは、40年にわたり神戸華僑総会の事務局長、副会長として中日友好にたずさわってこられた業績に

対して評価されたものですが、これからもその人脈と経験を活かして、KFGの緑化活動にご尽力されることを期待しています。どうもおめでとうございます。



はあ〜とふるふあんど委員会  
米田義一兵庫県遊技業協同組合理事長より  
支援金を受けとる石副代表。  
(写真は毎日新聞提供)

## ●● 念願の活動支援金をいただきました。 ●●

ボランティア活動を展開する上で厭応なしにつきまとうのが資金不足です。活動を広げれば、それだけ経費がかさみます。ボランティアは自弁が当り前ですが限度もあります。頭の痛いところです。

この度兵遊協ハート玉福祉支援事

業“はあ〜とふるふあんど”のひようごボランティアあしすとより56万の支援金をいただきました。

これによって事務所の基盤強化、事務ボランティアの交通費一部負担に当てることができ、今後の活動拡大につながると思います。

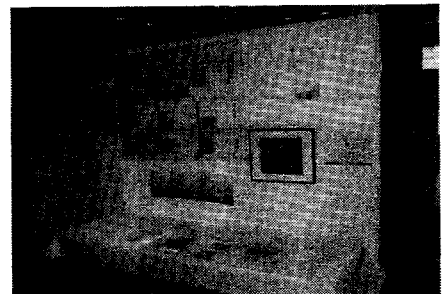
## 写真とスケッチ展 報告

### 「私の見た黄土高原そして人と人とのつながり」

通常総会5月23日の前後3日間植樹ワーキングツアー参加者による写真&スケッチ展を開きました。

3日間の予定だったのですが、より広く皆さんに見てもらうために、(社)中華会館の通常総会日、5月30日まで延長しました。

会員自身が見た黄土高原の現状を環境問題と縁の薄い人達に見てもらい、緑化への関心を広げる効果がありました。今後も会の活動として展開していきます。



写真&スケッチ展の会場



## 私と環境(1)

私は保育園の園長をしています。子ども達と共に、毎日楽しく過ごしています。私のポリシーは、「楽しく！」です。私の園は、一年中いろんなことをして元気にあふれています。園の中でも先生方に「何でも好きなことをやり、楽しくして下さい」と言ってアイデアいっぱいの保育をしてもらっています。私もいつも、楽しいことはないかしらと考えています。そして、音楽会は「森のホール」(三木市)ですることになりました。ここは舞台がガラス張り、バックは森の木々で囲まれています。子ども達が舞台上になると、後ろは緑のすてきな会場なのです。お手紙でも「森

## “森は友達”

KFG理事 勝亦 すゑ子  
(さくら・こぼとキンダーガーデン)

の音楽会をします…」とお知らせを出します。ご家族もきっと喜んで下さることと思います。

私は、時々この会場の夜のコンサートにもでかけます。夜の森は、ロマンチックです。月や星が輝き、遠くの森からふくろうが今にも「フォーフォー」と鳴きだしそうです。

ゆったりとした気持ちで、ヴァイオリンやチェロ、ピアノの演奏を楽しみ、闇に包まれて家に帰ります。満足感で身も心もリラックスできます。県の施設なので入場料も無料で、日本でもこんないいところはないと喜んでる私です。ここは私にとって、くつろぎの場です。三宮や神戸

の都会も刺激があり、なかなか興味深いですが、森林の美しさやナチュラルな空気は心が洗われ、一日中歩き、芝生では寝転びたくなります。小さな可愛い小犬をおともに散歩すると、ちょっとおしゃれですね。かっこよくて、私はあこがれています。そして子ども達にとって自然は友達です。小さな頃から木々の緑の中で遊ぶことがきっと情操が豊になること受けあいです。共に緑の中にいる時、私の心も元気になり何とも言えないいい気持ちになります。森は皆の友達ですね。

### 第2回 六甲山クリーンアップへの参加

— 身近にできることから始めよう —

私達をめぐる環境は悪化するばかりですが、それに対する危機感、認識も高まっています。身近にできることから関心の環を広げることは必要です。前回のクリーンキャンペーンには10名の参加がありました。

KFGとしては、春・秋2回実施をしますので会員同士の交流もかねて、歩くことの楽しさと小さな活動にふるって参加しませんか。

- 日時 2004年9月5日(日)  
AM. 9:30 小雨決行
- 集合 阪急芦屋川駅北側
- 歩行 4時間 約10km
- コース 芦屋川駅～公園～高座の滝～高座谷～風吹岩～横池(昼食)～雨ヶ峠～東お多福山～同登山口バス停(帰路は芦屋川駅までバス)
- 携帯品 弁当・水筒・雨具・タオル軍手
- 責任者 林 青彦
- サブ責任者 安本昭久

### 2004年黄土高原植樹ワーキングツアーのお知らせ

- Aコース 蘭州・成都・九寨溝・黄龍 10月8日(金)～10月15日(金) 7泊8日
- Bコース 蘭州・西安・北京 10月8日(金)～10月13日(水) 5泊6日
- Cコース 蘭州・敦煌・北京 10月8日(金)～10月13日(水) 5泊6日

\* いづれのコースも10月9日、日中友好林にて植樹します。  
(各コース共参加人数15名様以上)

\* 詳細は別案内書をご覧ください。

この機会に会員同士の交流  
および自ら苗木を植えてみ  
ませんか!

【お問合せ先】  
㈱神戸華聯旅行社 担当 金 啓功  
TEL078-391-5185 FAX078-332-4458



現地スタッフの女性と汗を流す津島さん。  
(写真 毎日新聞提供)

2003年度

### 植樹ワーキングツアーに同行して

KFG会員 長尾 真希子  
(毎日新聞神戸支局)

「こりや大変。ほんまにはげ山やん」。これが私が甘肅省蘭州市を昨年初めて訪れたときに思わず、吐露した言葉だった。バスの車窓から見る限り、延々と続く雑草の一つ生えていない山々。絶望的な気持ちになった。「本当にこんな土地が緑でいっぱいになるんやろか」。そんな疑問を胸に「日中友好林」を訪れたとき、「黄河の森緑化ネットワーク(KFG)」のメンバーらが「去年は山が肌色ぽかったのに、黄緑色になっている」と喜んでる姿を目の当たりにした。小さな一歩が確実に根付いていたのだ。正直、驚いた。絶望が希望に変わった瞬間だった。

年間約3400平方キロメートルに達するという中国の砂漠化は深刻な環境問題となっている。人間が出来ることには限界があるのかもしれない。私たちの植林なんて大したことないかもしれない。でも、誰かが何かをしなければ、誰かが小さな一歩を踏み出さなければ、決して現状を打破できない。今回のツアーで私はそんなことを学んだ気がした。

「まずは一本の植樹から」。どんな形でもいい。私は私なりに今後もKFGに深くかかわっていきたい。

## 黄土高原の植物Ⅱ

KFG顧問 徳岡正三

(高知大学農学部森林科学科教授、農学博士)

### 刺槐、洋槐 ニセアカシア その1

かつて六甲山は町に近い山として過剰な伐採のうき目に会った。建築用などとして木がどんどん伐り出されたのである。木のない空き地ができると、花崗岩由来の土が容易に雨で流れ出て、そこが痩せ地になった。こうしてどんどん荒れ地ができ、六甲山に広大なハゲ山が広がることになった。むき出しの花崗岩はさらに土砂を生み出し、それが豪雨とともに下流に押し寄せ、大きな洪水被害も起こった。

ハゲ山を目にして何もしなかったわけではない。20世紀初めから大々的に緑回復の試みがなされ、六甲山の緑化はすでに100年余の歴史がある。私の中学、高校時代はこの緑化の歴史の中頃(1955~60)年を過ごしたことになる。当時まだハゲ山が多く、市街地に接した兵庫区の丸山公園(と思うが)もハゲ山同然であった。それでも再度山やレクリエーションで巡る六甲山は緑が多かったという印象がある。当時は緑化について知識も理解もなかったが、約60年の緑化の歴史をへて、かなり緑がよみがえっていたということであろう。

岩がむき出しの荒れ地は土が少なく養分もない。こうした痩せた土地にはそれに耐える植物を植えるしか

ない。六甲山ではニセアカシアがたくさん植えられた。ニセアカシアは根が根粒菌と共生する。根粒菌が空中から窒素を取り込み、土に含まれない窒素養分をニセアカシアに与え、ニセアカシアは葉で作った養分を根粒菌に与え、たがいに助け合って生きるわけである。とにかくニセアカシアは痩せ地に耐え、旺盛に成長する。痩せ地にはもってこいの木なのである。おかげで六甲山に緑が増えた。

海岸の砂地にも養分がほとんどない。そこで主に日本海側の砂浜海岸にニセアカシアがたくさん植えられた。予想通りすくすくと成長した。ところが大きな問題が発生した。もともと日本の海側は砂の白さとマツの常緑の対比が美しく、「白砂青松」が観賞される。マツでなくニセアカシアを植えたもくろみは次のようであった。日本海側は冬に北西風がビュービュー吹くので、いきなりマツを植えても育ちにくい。そこで育ちやすいニセアカシアをまず植え、これに土地改良や防風林の役目をさせながらマツを育て、最終的にはマツの海岸林をつくるつもりであった。ところが強靱なニセアカシアは役目を終えて伐られても枯れないのである。

残った切り株や根から新しい枝葉が出て、すぐに元通りになる。マツに替えるもくろみは大きく挫折している。

実は六甲山でもニセアカシアがもともと日本原産の木でないこともあって、最初はニセアカシアを植えても、将来的には六甲山本来の植生にもどすことが意図されていたのではないか。ところが強靱な性質は他の植物の侵入を許さず、その土地を独り占めしている感がある。日本では大きくなったニセアカシアをどう扱ったらいいのか、現場や専門家の人たちが悩んでいるのが現状である。

ニセアカシアの話は少し長くなりそうである。黄土高原でよく植えられているニセアカシアが、六甲山でもたくさん植えられていることをまずはご紹介しておきたい。



現地スタッフと生育状況を見る徳岡顧問

## 会 務 報 告

- 2004年 1月7日 NPO法人設立登記確認 神戸地方法務局
- 1月8日 法人設立登記完了届 兵庫県NPO法人係
- 1月13日 事務所開設準備
- 1月21日 森林再生国際協力フォーラムに参加
- 1月24日 広報誌編集部会
- 1月27日 広報誌編集部会
- 1月29日 日中友好林への緑化支援金180万のうち残り50万を支出した
- 1月30日 特定財源取得事業事前相談 JAICA国際協力事業団所戸事務所
- 2月4日 特定財源(助成金)しみん基金こうべ申請
- 2月27日 第4回理事会 2004年度事業計画他1件協議
- 3月8日 第1回監事会 2003年度中間監査
- 3月24日 企画部会 2004年度総会について他1件協議
- 4月5日 企画部会 2004年度予算案について
- 4月11日 六甲山クリーンキャンペーンにKFGより10名が参加
- 4月18日 第1回理事会・第1回通常総会・パネル展示・フォーラムについて
- 4月26日 編集部会 パネル&スケッチ展準備

- 5月11日 企画部会 通常総会開催について  
5月17日 はあ〜とふるふぁんどひょうごボランティアあしすと支援金授賞式に石/永山副代表/林事務局長  
5月23日 NPO法人黄河の森緑化ネットワーク第1回通常総会開催  
出席者37名、委任状94名、書面議決44名、計175名。会員数292名につき大会成立  
秋山氏を議長に選出し、2003年度事業報告書、収支計算書を承認。  
2004年度事業計画・収支予算書の承認。定款の一部変更。理事・監事の選任  
会費の額について、第1号〜第5号議案の承認を得た  
同日 KFG顧問徳岡正三氏による講演“砂漠緑化はできる？できない？”開催  
5月30日 第2回理事会役員改選・10月ワーキングツアーについて他1件協議  
6月12日 2004年市民フォーラム“あすを植えよう、地球にいのちの森を”パシフィコ横浜へ林事務局長参加  
6月15日 法人変更登記申請神戸地方法務局。2004年度事業報告書・定款変更届を県法人係へ提出。  
6月22日 会報誌編集部会  
6月23日 企画部会 会員の整理、2004年ワーキングツアーについて



## 黄河の森緑化ネットワークツアー 玉手 洋江 (KFG理事)

今年で3年目。素敵な、そして新しい出会いを求めて中国に旅立った。最初の目的地である蘭州市での植樹。バスに乗車し、蘭州市の市街地を通り抜け、広大な砂ばかりの山肌の、道のりを通りすぎると、見慣れた山に到着した。揺られてきたバスを降り、ゆっくりゆっくりと一步一步山道を踏みしめ息を引き締めて20分程度の山道を登っていくと植樹するために見慣れてははずの風景がきれいに整備され、赤い風船で作られたアーチが飾られ、アーチの奥に赤い布に覆われた三角の建物、蘭州市の人達、鼓笛隊の方々が私たちの到着を待ちわびておられました。いよいよ中日友好林の絆となるモニュメントの除幕式が盛大に行なわれました。三角型の碑、中国と日本を表したとても素晴らしいものだと感動しました。黄河の森緑化ネットワークの植樹活動はとても素晴らしいものであり、蘭州市との友好の輪が広がり、黄河の森緑化ネットワークとしての第一歩であると確信し、次の行程であるウルムチ・トルファン・蘇州への観光に思いをはしらせました。



## KFG事務局からのお願い

- KFGの活動は一步ずつ着実に進んでいます。会員も300名程になりました。皆様のご理解とご支援をどうもありがとうございます。2004年度の会費・支援金のお願いを送らせていただきますが引き続きよろしく願いいたします。
- 会員になっていない方や友人達に、ぜひKFGへ入会し、活動を支えてください。
- 会報への投稿をしてください。KFGの活動への助言や環境問題の情報、ご自分の考え方をお寄せください。本誌は2月・7月の発行です。締切、紙面の都合により掲載できない場合がありますのでご了承ください。